

## 令和7年度 第2回彦根城博物館協議会 会議録

日 時 令和8年2月20日（金） 14時～16時  
場 所 彦根城博物館 講堂  
出席者 東幸代委員、有坂道子委員、井伊裕子委員、北村里美委員、木村昌弘委員、  
田島達也委員、谷口徹委員、馬場孝雄委員（50音順）  
（欠席者：大槻倫子委員）  
清水教育部次長、渡辺副館長（学芸史料課課長）、高木学芸史料課主幹、  
奥田学芸史料課学芸係長、都築副参事（管理課課長）、藤原管理課課長補  
佐、前川管理課主務、中橋管理課主事

### 1. 議 事

#### (1) 令和7年度彦根城博物館事業の取組状況について

（委員）今年度の観覧者数について、例年3年と比べて多いのか少ないのか。

（博物館）4月～9月は昨年度に比べて減ったが、10月、11月は昨年度に比べて増加した。特別展の開催等もあり増加したと考えている。12月、1月は、昨年度と比べると減ってるが、休館日数が昨年度と比較すると多いため実質は同程度と思われる。

（委員）博物館のメールマガジンを登録している。すき間時間に見れるので良いと思っているが、申し込み方法が難しい。一般の方が気軽に申し込めるように、ハードルの低い入口であればいいかと思うが。

博物館の講座や教室について記載があったが、新規で参加された方とリピーターの手ごたえはどうか。

デジタルアーカイブ化について、いつ頃から公開予定か。優先してデジタル化する資料があれば教えてほしい。

（博物館）講座については、友の会の方やリピーターの方もいる。高齢者が多いが若い方もその中に混じっている。内容によっては、京都や名古屋など遠方からくるかたもいる。内容によるが、お城に関する講座の時は、人が多かった。駐車場は有料のため、市民の方が気軽に来れないという課題もある。「古文書のみかた」については、受講者数を超える方に応募いただいている。

デジタルアーカイブについては、今年度は彦根藩井伊家文書195点を撮影し、公開予定。文化遺産オンラインおよびジャパンリサーチにも掲載予定。今後は彦根城博物館で出している調査報告書、目録等の公開も行っていく。その後、どのような種類の作品を掲載し、継続していくかはまだ確定していない。

（委員）古文書以外に美術品は載せる予定がないのか。

(博物館) 現時点で古文書以外のラインナップを載せる予定はない。美術作品は代表的なものは公開されている。

(委員) 美術品は文化遺産オンラインと繋がっているのか。

(博物館) 繋がっていない。

(委員) いろいろ繋がっていると気づいてもらえるので、うまく繋げると良いと思う。

(委員) 彦根城博物館単独で来館される方はどれくらいいるのか。

(博物館) 手元に具体的な資料は無いが、8割～9割程度の方が彦根城とのセット券を購入して入館されていると考える。その他は博物館単独となる。

## (2) 令和8年度彦根城博物館の事業計画について

(委員) 展覧会タイトルについて、非常に均一的で専門家には響くが、一般、特に若い方等にはわかりにくいのではないか。ギャラリートークのタイトル中の「指料」等は表現を変えるか、副題が必要ではないか。

(博物館) 「ギャラリートーク」については、実際に行う場合は展示会タイトルと同様に副題をつけて実施する。

今の若い人にも響くようなタイトルは考えるようにしているが、もっと幅広く、他の博物館のタイトルなどを、展覧会に限らず、こういったような言葉を良い感じで使っているのかといったようなことを、もう少し広く意識しているようにして、今後、検討していきたい。

(委員) 2点聞かせてもらいたい。1点目は、開館時間の変更について、理由は運営の効率化を図るとあるが、まずは市民や観光客のことを考えるべきかと思うが、最初の30分間でどれだけ人が入っているのかデータはあるのか。2点目は質問というか提案になるが、「市民との協働」について、前年度の内容から見ると市民の学習意欲に博物館が答える形になるので、博物館が中心ではなく市民が中心であるため、説明文中の表現を「博物館と市民の協働」ではなく「市民と博物館の協働」に表現を変えてはどうか。

(博物館) 1点目について、データは収集し、全体の1%程度であることが分かっている。開館しているので入館があるが、全部が無くなるのではなく、開館時間に併せ入館される方もおられると思っている。ちなみに県内の博物館では8時30分から開館している館はない。2点目の市民との協働についての部分は研究していく。

(委員) 1%程度という数字を聞いて納得した。市民との協働は研究をお願いしたい。

(委員) 開館 40 周年の事業として、お泊り会など様々な切り口でするのは良いと思う。実施については、彦根城築城 420 年、ひこにゃん誕生 20 周年、世界遺産推進等もあるので、そういうことも含めて推進してほしい。意見として申し上げる。

(委員) 文化財調査について、空き家になるという事例があり、空き家バンクの制度もある。家の整理をするにあたり、古文書などは捨てられてしまう。そこに楔を打てるような取り組みを考えていく必要がある。それに対応する必要があると考えている。これについて、考えておられることはないか。

(博物館) 保存については、本市の文化財全体のところで考えないといけない案件であり博物館としてどう関わるか、収蔵スペースはどうするか。古文書と美術品の物量の違いなど、また、修理なども考えていく必要がある。現在は明治くらいまでが「古文書」とされるが、今後は戦後くらいまでのものはその対象となり得る。当館としてはなかなか対応できない状況である。

(委員) 空き家も増えているが土蔵も増えている。そうしたところを借りて保存するなど、いろいろなことを考えていく必要がある。

(委員) こちらの収蔵庫の状況はどうなっているのか。

(博物館) 収蔵庫の棚も埋まっており、飽和状態である。

(委員) 今の話は別としても、収蔵庫の状態は考えていく必要があるという状況。どこの博物館も収蔵庫が厳しい状況であるが、先々のことを考えてもらう必要がある。調査に行かれていると思うが、ある程度マークしているところはあるのか。相談など受けているか。

(博物館) 実際ある。

(委員) 40 周年記念展覧会というわけではないが、40 周年記念事業のイベントははこれこれで面白そうである。現有職員で実施するのか。

(博物館) なるべくお金をかけずに、職員が知恵を絞りまして、現有の学芸史料課員・管理課員で、それぞれの担当部分および両課で協力してやっていきたい。

(委員) 先ほどから 40 周年ということで、40 年もたつといろいろと代替わりしている。井伊正弘氏（初代館長）のことも知らない人があるが、井伊家の先人たちの「思い」を伝えても良いのかと思う。特に直弼について。やりきれない思いを抱えていたと思う。関東大震災においても、大老関係文書や彦根屏風は先に助け出したという話を聞いた。

政治の都合で人を勝手に悪者にしないで、資料に基づいて、きちんと評価して欲しいと言う強い思いで資料散逸させないで、とにかく伝える「思い」があった。彦根のものが今、彦根城博物館に有るのは普通と思われるが実はそうではない。その過程をおさらいしても良いのかなと思う。

(委員) 40 周年記念事業の「彦根城博物館の歩み」は単にポスターを飾るだけか？

(博物館) 現状はポスターを並べるだけで、プロセスの紹介はない予定。当時のビデオを公開するが、開館に至るまでの過程や説明をどうするのか未定であるが、博物館としてしっかりと継承していきたい。

### (3) その他

「彦根城博物館管理運営基金の設置、管理および処分に関する条例」について

「彦根城博物館の設置及び管理に関する条例」について

「彦根城博物館の管理運営に関する規則」について

(委員) 彦根屏風の基金があったと思うが、現状どうなっているのか。また、新設基金とのすみわけはどうか。

(博物館) 彦根屏風の基金残高は現在約 30 万円。これは彦根屏風の管理を円滑にするためという形で限定されている。今回の新設基金は、博物館資料全体を包括しているもので、彦根屏風もそこに含まれている。「彦根屏風」というように限定すると、使いづらな側面があるので、資料全般、管理運営で使えるようにしている。